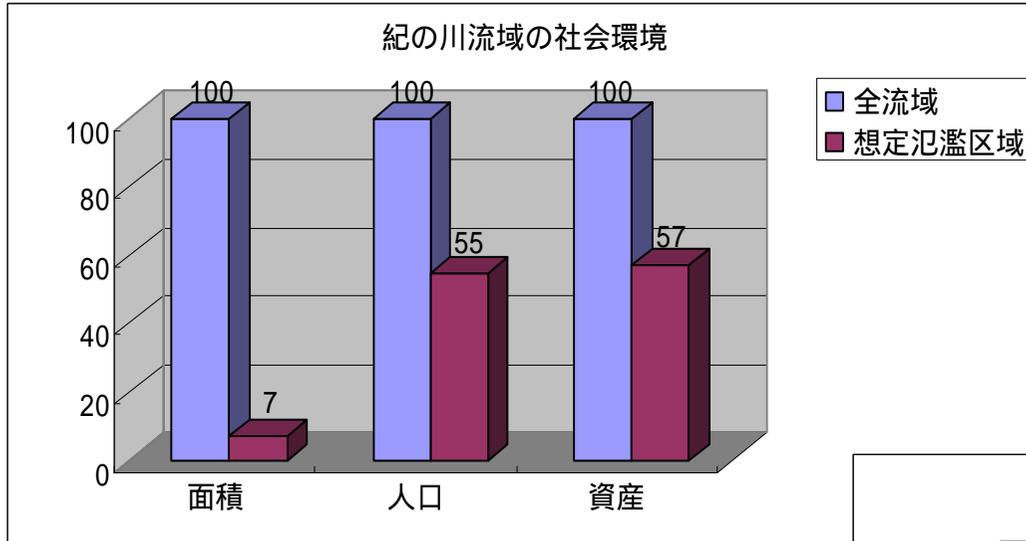


第2項 紀の川水系を とりまく社会環境

紀の川流域の社会環境



出典：河川現況調査（H9.3）より

	全流域面積	想定氾濫面積
紀の川	1,763	124
全国	257,232	31,943

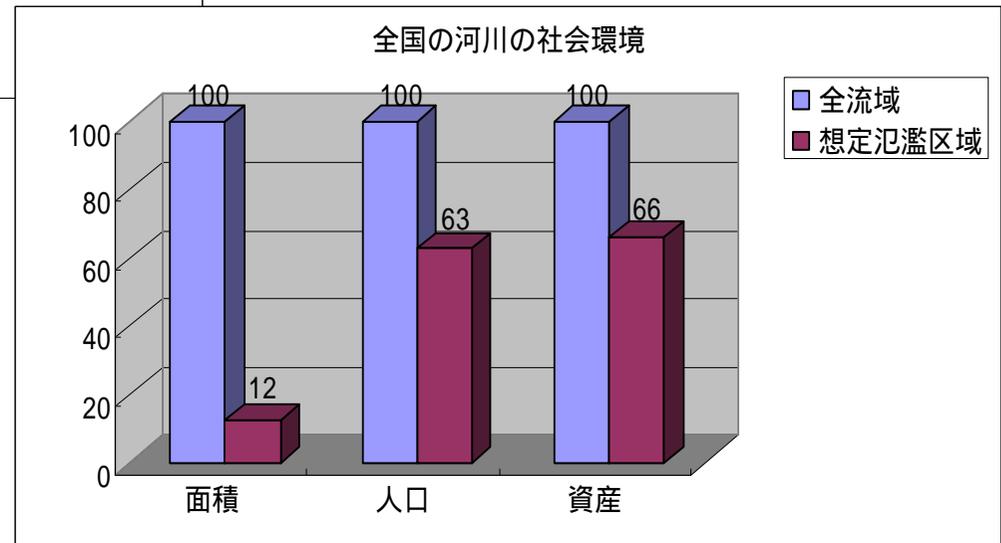
km2

	全流域内人口	想定氾濫区域内人口
紀の川	672,288	369,439
全国	82,133,171	51,651,364

人

	全流域内資産	想定氾濫区域内資産
紀の川	74,614	42,662
全国	1,002,927,945	662,934,210

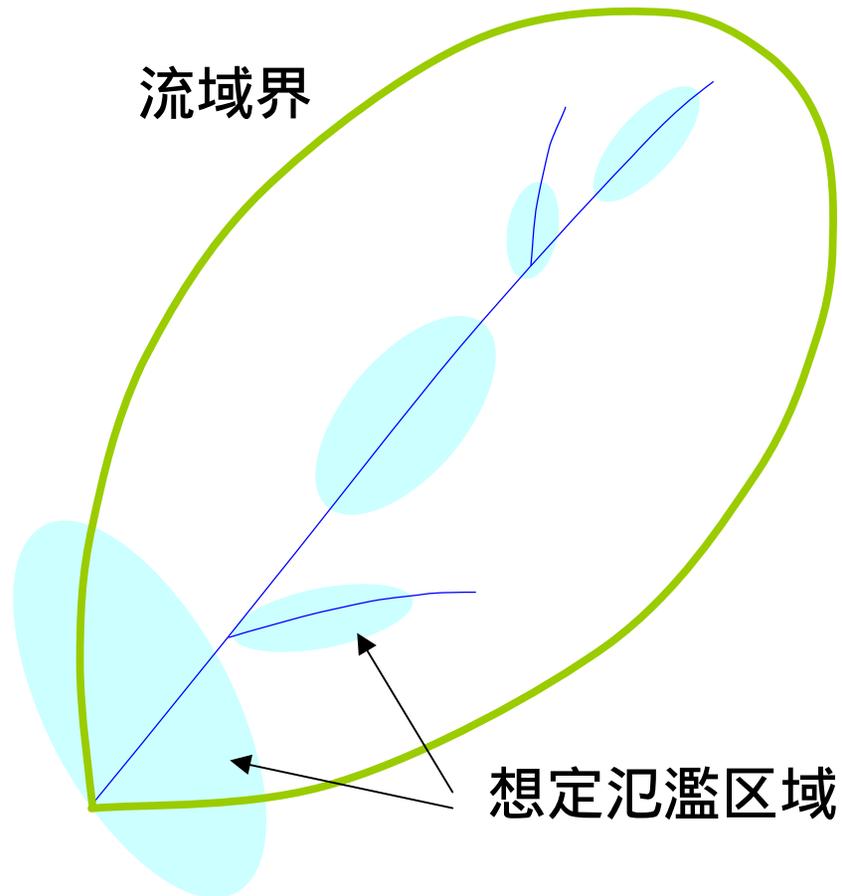
百万円



紀の川は全国の河川と比較して、小さい想定氾濫区域に多くの人口や資産が含まれています。

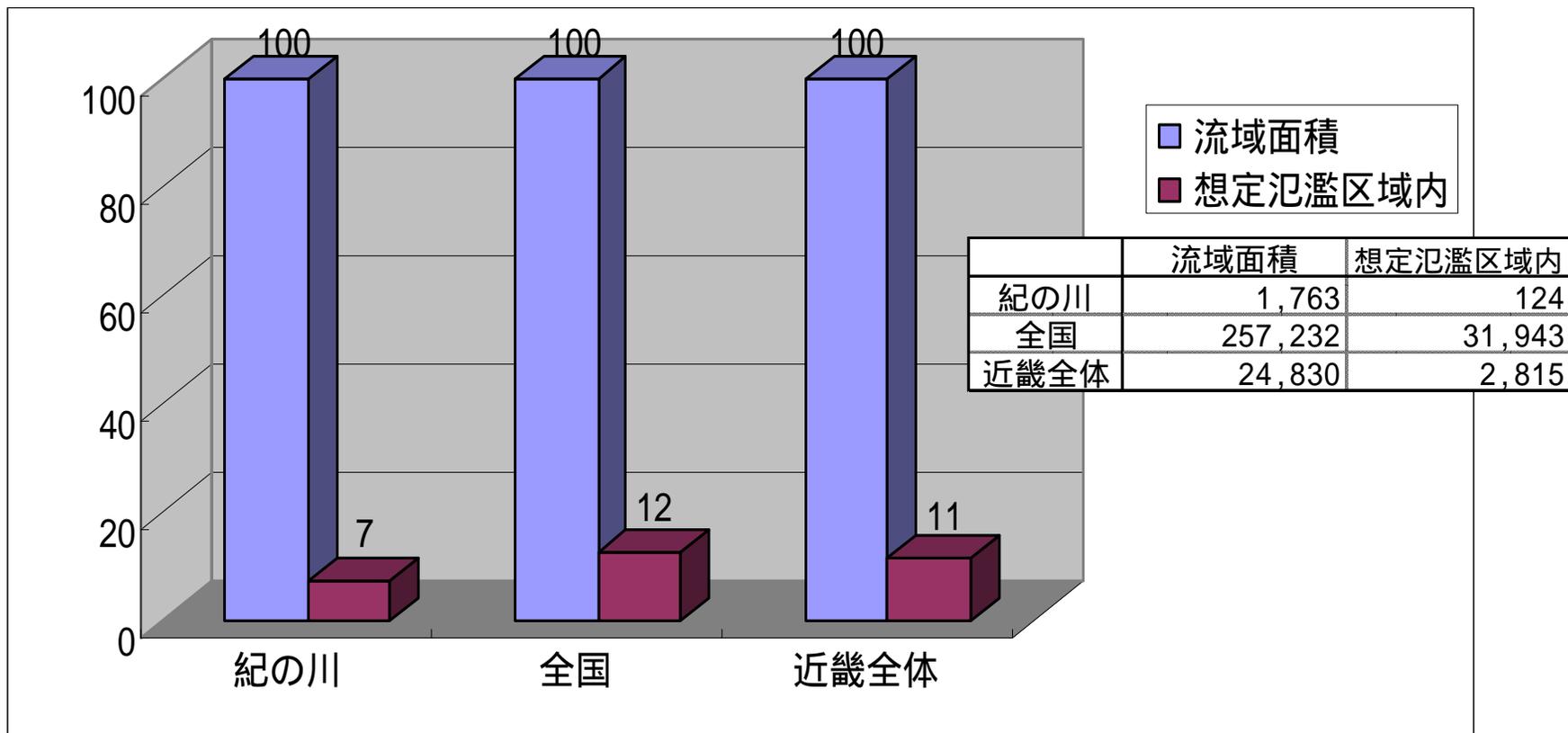
想定氾濫区域とは・・・

河川が越水・破堤氾濫した場合に、その氾濫水により浸水が想定される区域を示します。



想定氾濫区域面積

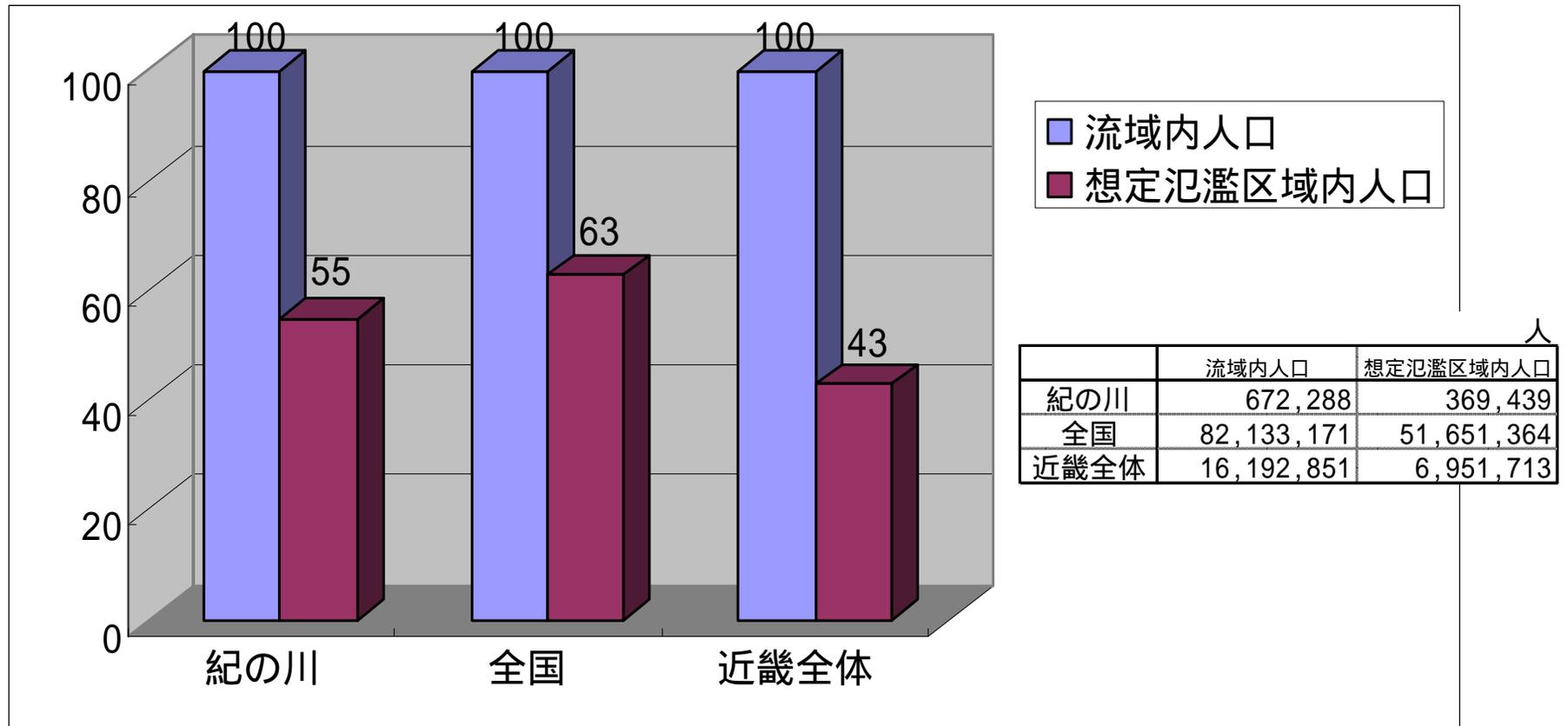
出典：河川現況調査（H9.3）より



紀の川は他河川と比較して、平地の割合が少ないことから、全流域面積に対する想定氾濫区域面積は大きくありません。

想定氾濫区域内人口

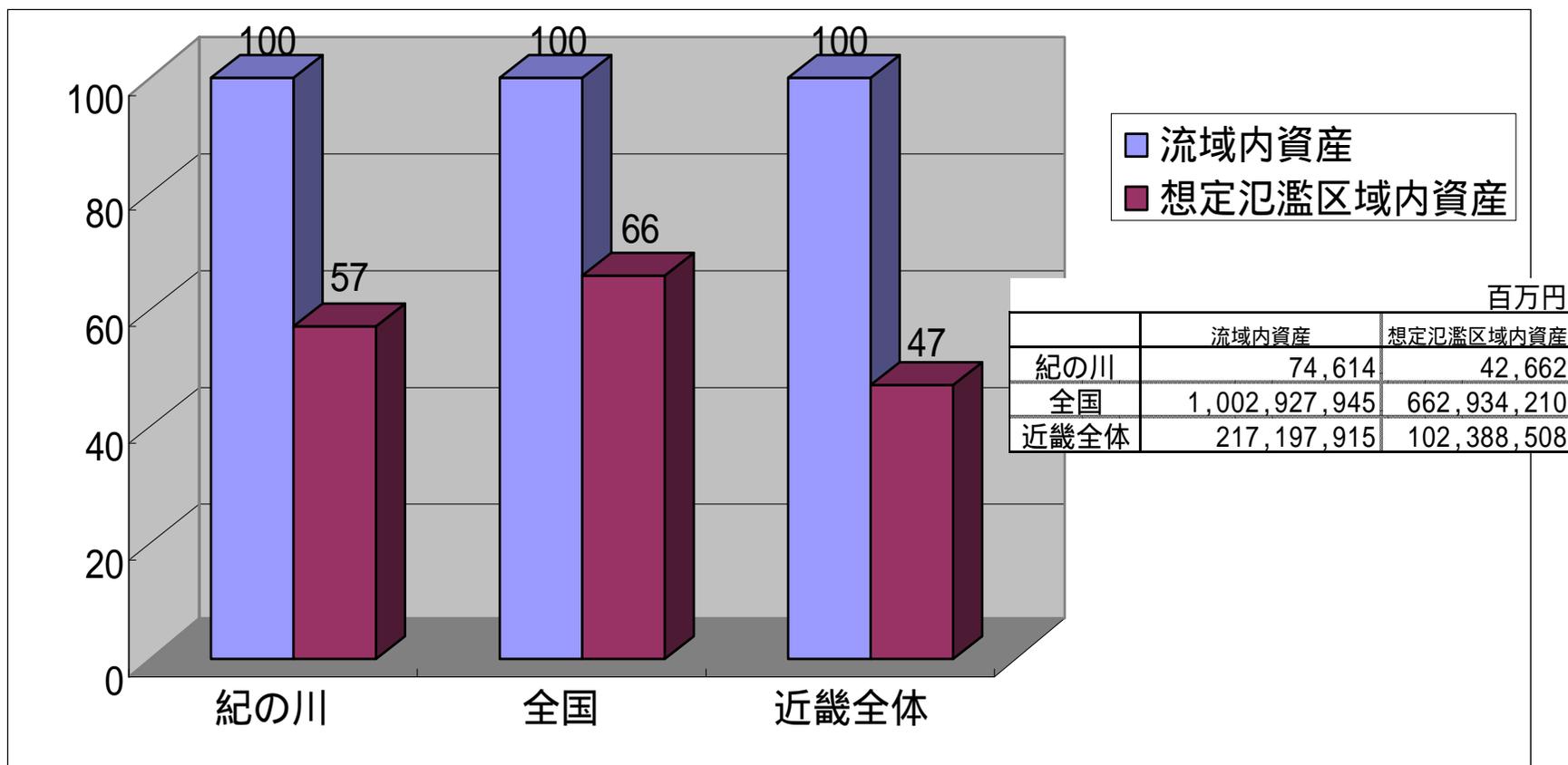
出典：河川現況調査（H9.3）より



紀の川では、流域にすむ人口のうちの半数以上が、想定氾濫区域内に住んでいます。

想定氾濫区域内資産

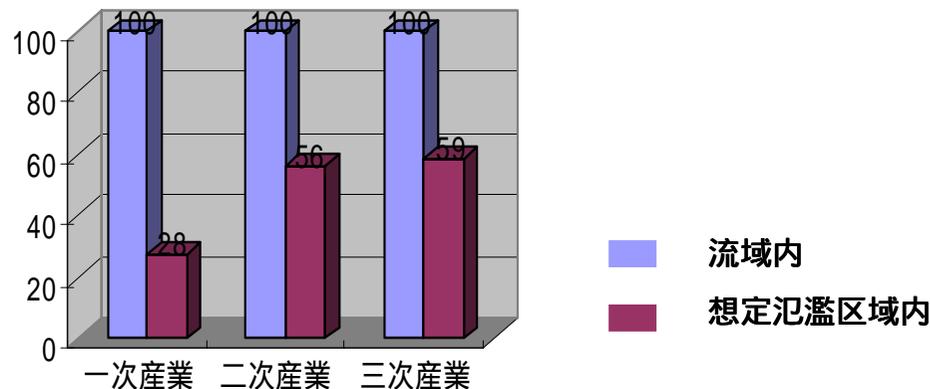
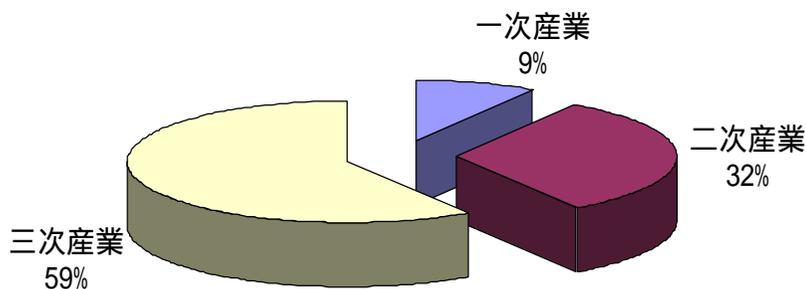
出典：河川現況調査（H9.3）より



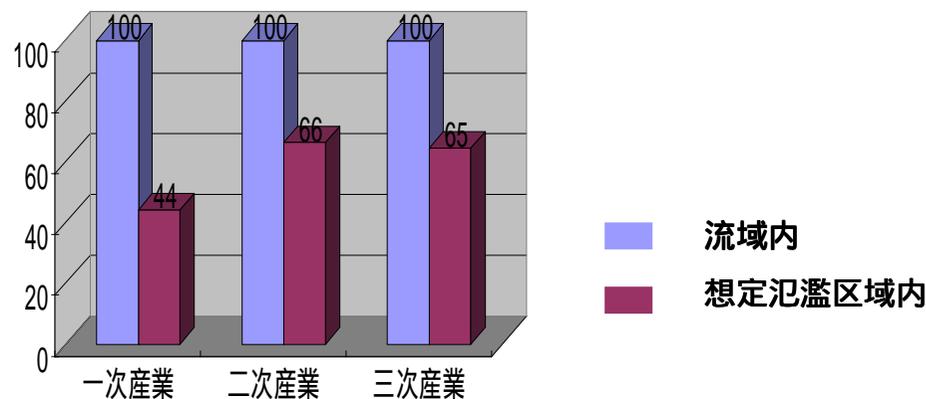
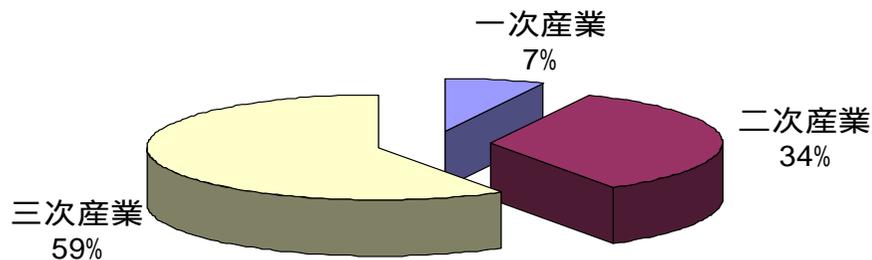
紀の川では、人口と同様に全流域内資産のうち、半数以上が、想定氾濫区域内に含まれています。

想定氾濫区域内産業就労人口

想定氾濫区域内の産業就労人口をみると、全国平均と同様に3次産業人口が多く占めており、ひとたび氾濫が発生すると私たちの社会生活に大きな影響を及ぼすことがわかります。



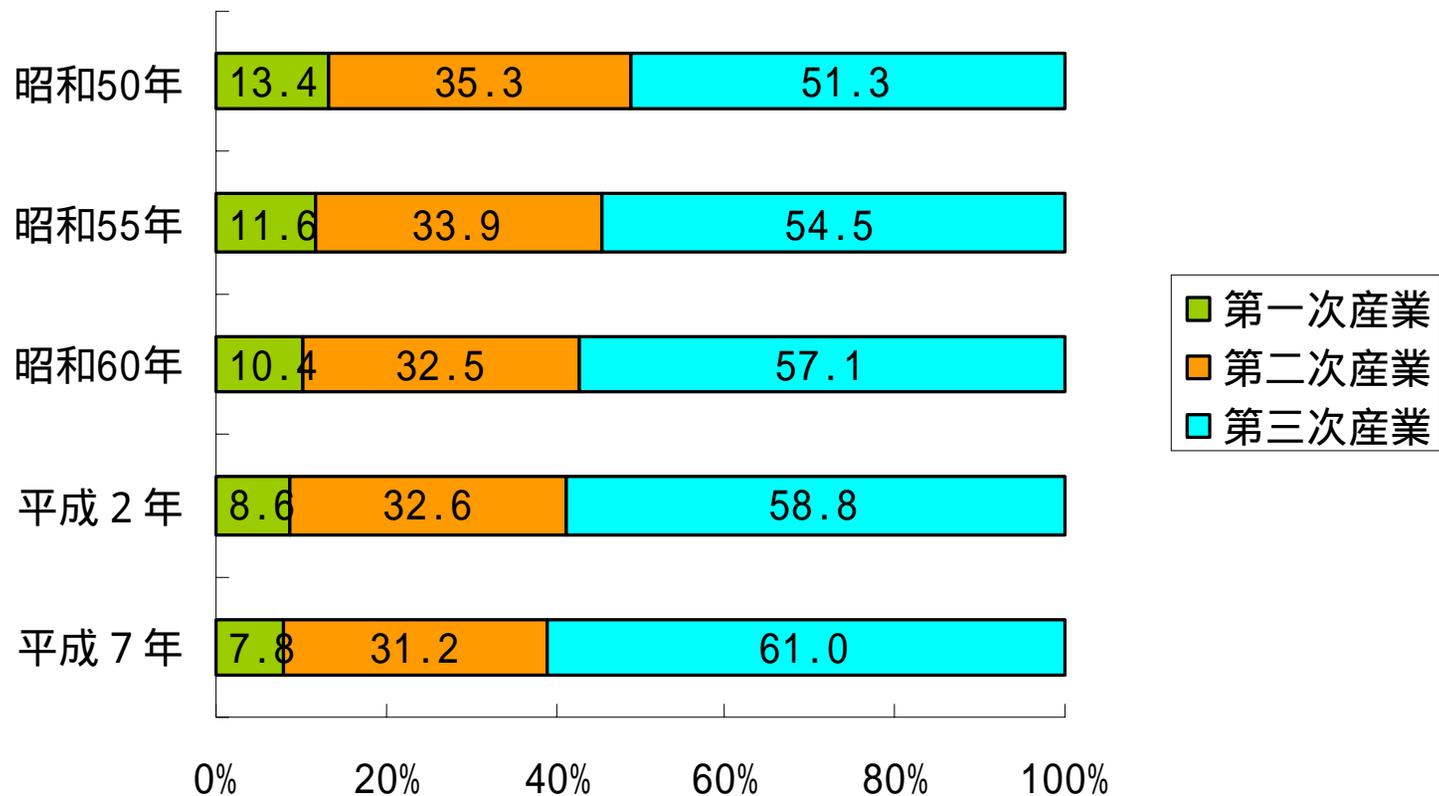
紀の川（流域内総就労人口314千人）



全国（流域内総就労人口41,298千人） 出典：河川現況調査（H9.3）より

流域市町村産業就労人口の経年変化

紀の川流域市町村の産業別就労人口（平成7年調査）は、第三次産業が61.0%と最も多く、次いで第二次産業の31.2%で、第一次産業は7.8%となっています。経年的には、第一次、第二次産業が減少傾向で、第三次産業が増加傾向にあります。



出典：国勢調査より作成

紀の川沿川の市街化区域(和歌山市)

緑線枠内は想定氾濫区域

赤線枠内が市街化区域

想定氾濫区域は、国が管理する箇所のみ記載。



河口部は、左右岸とも市街化区域に設定されています。この区域で氾濫が発生すると、大きな被害が発生する恐れがあります。

1/50,000地形図より

紀の川沿川の市街化区域(橋本市)

橋本市の市街化区域は、右図の通りです。

この区域は、今後の宅地開発などにより市街化される予定があるため、氾濫が発生した場合、浸水被害が拡大する可能性があります。

緑線枠内は想定氾濫区域

赤線枠内が市街化区域



50K付近(橋本市)



1/50,000地形図より

紀の川沿川の市街化区域(五條市)

緑線枠内は想定氾濫区域

赤線枠内が市街化区域

五條市から上流の市街化区域です。
この区域も、今後の宅地開発などにより市街化される予定があるため、氾濫が発生した場合、浸水被害が拡大する可能性があります。

想定氾濫区域は、国が管理する箇所のみ記載。

大淀町

吉野町

60K付近(五條市)